

良子さんの ほっと一息ティータイム

東京歩くたび

熊谷 良子 vol.23

いつか時間に余裕ができたなら、のんびりと旅をしたいと思っている人は多いでしょう。私は、ずっと憧れている旅のスタイルがあります。それは「歩くたび」です。いつになったら、「その日」は来るのでしょうか。自由な時間ができた頃には、体力や判断力や瞬発力に衰えの芽がにゅっと出てきて、旅をする自信が揺らぐものです。そんな時、東京に住む娘から国立新美術館で開催中の「マティス展」への誘いがありました。「背中を押される」ってこういうことですね。すぐOKの返事をして、いざ東京へ。価格高騰の折りに格安照準に的中したのは、府中のホテルです。府中ってどこだ？と、地図が読めない残念な旅人ですが、行き先を入力すれば、時刻や乗換などを教えてくれる有能なアプリがあるので心強いです。3泊4日滞在した府中のシンボルは、150本、約500mの1000年の歴史があるケヤキ並木です。すっかり葉を落としたケヤキ並木は、風情があり、歩くことを味わい愉しむことができました。

井の頭公園には、長崎の平和記念像を制作した北村西望のアトリエがあり、彫刻を鑑賞したり、自然文化園で動物と触れ合いながらの散策は、リラックスしていく心と身体を感じます。

木々の合間から隣接するジブリ美術館がちょっと見えただけで嬉しさが溢れてきたり、さらに、吉祥寺のカフェでは、非日常感が高まるのは不思議です。新宿御苑、上野恩賜公園、浅草周辺の観光名所も路地裏も、よく歩き、そして、よく食べました。一日平均14000歩でした。

“サムライロード”と呼ばれている長野県南木曾町の妻籠宿から岐阜県中津川市の馬籠宿の旧中山道を多くの外国の旅行者が歩いているのをYouTubeで見たり、『江戸近郊道しるべ』を読んだりすると、さらに「歩くたび」への憧れが膨らみます。次の「いつか、その日」のために、日々の暮らしを大切に過ごそうと思います。

